

区分・種別	県指定無形文化財		
名称	とべやき 砥部焼		
所在地	伊予郡砥部町		
所有者		保持者氏名	酒井芳美 工藤省治
指定年月日	平成17年12月27日		
解説	<p>伊予郡砥部町で生産される磁器を「砥部焼」と称している。起源は不詳であるが、江戸時代中期より日用雑器が焼かれていたと伝えられ、現在の磁器生産の始まりは、大洲藩が砥石層を用いた磁器づくりを命じ、安永6（1777）年磁器焼成に成功したことが始まりとされている。文政元（1818）年に、鉄分含有量の少ない川登<sup>かわのぼりとうせき</sup>陶石が発見され、黒味を帯びていた磁肌から白磁砥部焼へと磁質の改良が進む。明治期以降、砥部焼は地場産業として大きく発展を見せ、近世後期以来の白磁や染付の伝統技法を基調に技術革新を繰り返しながら受け継がれている。また、昭和51年に通商産業省より「伝統的工芸品」として焼き物では6番目に指定されている。</p> <p>砥部焼は、ほとんど手作り手描きで生産され、白磁の肌に溶け込んだ呉須絵、素地の白さに調和した色絵、やや厚手の飾り気のない形と材質の堅さに特色がある。</p> <p>このように、砥部焼は、技術革新を繰り返しながらも、近世後期以来の白磁や染付の伝統技法を基調として伝えられており、伝統的な技法を基に、現代の感覚に沿った製作活動が活発に行われ、独特の芸術性を備えた陶芸技法として高く評価されている。</p>		



酒井芳美氏



工藤省治氏